

縱走 合宿 夏 合宿
報 告 書



SAC

～目次～ 4275-2

縦走合宿

- 日高、大木、梶原、松崎 隊 ... P3～
- 岡本、岸本、横山(勝)、横山(輝) 隊 ... P12～
- 深沢、若尾 隊 ... P19～

夏合宿 ... P23～

縦走合宿 北アルプス全山 テーマ“最強への道”

SL 大木 (2) L 日高 (2) 梶原 (1) 松崎 (1)

○期間 8月1日 ~ 20日 (15+5)

○コース 上高地 → 徳本峠 → 大天井岳 → 蝶ヶ岳 → 笠ヶ岳
 → 黒部五郎岳 → 鷹羽岳 → 針ヶ岳 → 鹿島槍岳
 → 白馬岳 → 日本海 (親不知)

8/1 4:00 サマテ起床

ラーメン ザック約40kg

4:45 上高地出発

亮介さんに送ってもら

7:50 徳本峠

麦谷さんの差し入れをく

14:00 大滝山

野田さんのパイナップルをく グレート

15:50 蝶ヶ岳ヒコウ

MB5 (マジ バトル 5秒前)

用装は軽かったが、いかんせん差し入れが少なくてない。

スィカ、パイナップル、マンゴー、缶詰×2、ケーキ、シュークリーム、ウイスキー。

だるい 徳本峠から大滝山までの間にほとんど食っていった。

テニ場でマンゴーらしきもの (後で分かったが、実はおいしい野菜だとはい)

も食ったが おまじにも マジ!! 我々の怒りはスィカにおまじの常念

という指定があったが 天気もこの先悪行なので食っていった。

8/2 沈殿

一晩中 暴風だった。夜中に一度 万岳を直に行く。4:00に起き、

再び日高と万岳を直に行く。なんとこの風は...

沈殿決定。風と雨強すぎる。テントがつかず地をうら...

暇なので 春^{せき}を歌い続ける。

4人で もんもんもん。

8/3 4:00 起床 MSRが昨日から壊れ、炎上してる
 5:05 出発 雨だ...
 8:46 常念岳 さおい!! さおと下りる。
 13:00 大天井 何も見えない... 何なんだ...
 14:15 テニ場 どんでもいざよ♡

雨がひたひた降った。止まると寒いから どんどん進む。
 MSRが昨日から調子が悪く、接続部分から白ガスが出る。
 こいつと日本海まで行くのか...、日本海に着いたら海に投げ捨て
 ようと決まってる人であった。

8/4 3:00 起床 雨だ...
 9:15 肩の小屋 大雨なので 櫓のカーブ 早くテニに入れた...
 13:10 双六小屋 さおい... 水場 万歳

表銀座はエキサイティングだったが、オバカーが怖い。ぼちぼちのスピード
 で50人くらい抜いてきた。
 天気予報だと今夜は雷♡明日も雨だって。

8/5 4:00 起床
 4:50 出発 おお... 雨が降ってない!!
 9:20 笠ヶ岳 山頂で雨... 基本だぜ
 13:35 双六小屋

笠ヶ岳はピストンで行くほうが山じゃないか。遠いよおは。
 テニ場に戻ると W大ワングルの男女が騒ぎまわっている。黄色い声と軟弱
 みたいな野郎の声に我々の腹立ち、ウイスキーを全て飲んでしまい、
 酔っぱらってしまった。 - 4 -

5/6	3:00 起床	マカポテ
	4:10 出発	日高と別れる。天気良し
	5:20 双六岳	御来光直後の稜線は美しい
	6:30 三俣蓮華岳	カズ
	10:45 黒部五郎岳	黒部カールは ヌルハンの世界だ、
	13:50 三俣山荘	やっぴピストンが 終わった。あとは北上

足を痛めていた日高は小池新道で下山した。別れ際の奴はさみじだ。絶対日本海に行くぜ、と心に誓う。

昨日に続き天気はよかつたが笠雲が気になる。なるべく急いで行動す。三俣山荘から黒部五郎岳をピストンし、テー場に戻ると雨が降りだした。笠ヶ岳、黒部五郎岳のピストンを終え、あとは北上すだけだ。

5/7 4:00 起床

ラーメン カシリ しろ口

た・い・き ♡ 427

7:15 沈殿決定 この天気では稜線の歩きません

嵐前の天気は回復し、野口五郎岳まで行くかと思つたが、去年テトをつぶされたトラウマがあるので今日はゆっくりほんやりおこなう。

テトの中のもの全て出し、干した。やっぱり晴んでないと話にならんよ。流れる雲と水の音を聞いているとすく幸せな気持ちになれた。

8/8 4:05 起床 1時間寝坊 不覚 沈殿の次の日なのに...
 5:10 出発 おおて 出発は
 6:00 鷲羽岳 晴れた。けど寒い
 8:00 水晶岳 GO GO!!
 10:40 野口五郎岳 やっぱ 風の強い稜線だ
 13:00 烏帽子小屋 風のなごすばらしいテニ場だ

不覚にも 3人とも寝坊してはった。

昨年、暴風雨でテニをつぶされた野口五郎のテニ場を横目で見ながら、烏帽子小屋までゆく。

中間日ってほんとに集中力が欠けている一年生が気にならぬので、テニ場って話を伝える。

8/9 3:00 起床 持ち入りラッセン。隣人にもちをもらう
 4:05 出発 おお、月と星じゃー
 6:50 不動岳 船くぼの方 かなりおっかねえ
 9:40 船窪乗越 三人 シャリバラ 樹林帯ムシ暑い!!
 11:10 七倉岳 水がうまい
 15:10 蓮華岳 過去最高級の感動を味わう。
 16:45 針ノ木峠 顔面 塩ダシ...

縦走で一番疲れた日だ。体のしんが疲労を感じた。標高の低い樹林帯と激しいアップダウンで3人はロックダウン寸前。蓮華の太りの手前のところで、我々の疲労曲線はMAXに達していた。死力を尽くして500アップし、今度は感動曲線がMAXに...。ほんとにうれしかった。最高のピークだった。忘れない。

結論：烏帽子～針ノ木峠間は一日で歩いてはならない

5/10 4:15 起床 もちろん寝坊
 5:20 出発
 6:00 針ノ木岳 天気良し 剣が美しい、雪ねエなみ
 12:20 爺ヶ岳 今日何なんじ菜なにか
 13:30 冷池山荘 ふうー

特別な登りもなく、休養日。のんびりハイキング気分て歩く。
 しかし... またか 今日が太陽を拝む最後の日になるなんて
 誰が 思えてたろうか。

5/11 3:00 起床 持ち入り カーラウとシ
 3:55 出発 ガスだ...
 5:35 鹿島槍岬 何も見えん
 9:55 五竜岳 何も見えん
 12:40 唐松山荘 何も見えん 一人だよ

予場に到着してから雨が降りはじめた。またか...
 天気図書いた... 低気圧しかな... 高気圧は? なんてんね

5/12 4:00 起床 いほらくたいき
 6:05 出発 大雨 + カナリ + 暴風 いやーん
 9:40 天狗山荘 川井さんと会う カナリのためたいき♡
 (10:10) 出陣 カナリのためたいき戻る
 12:00 再び出陣 体が凍える
 14:00 白馬山頂上宿舎 手紙を書く。
 16:50 雪倉山避難小屋 人いっけい みんな親切だった

計5ピッチで歩いた。休んでも寒いだけなので どんどん進んだ。
天狗山荘で川岸に出た。会い、話がはずむ。カミナリのため 12:00
まで動けず、体はビショビショでしんぞい凍えた。

山荘から1ピッチで頂上宿舎まで行く。中に入り、手紙を書く。
約1時間。雨が、今思えば、失敗だった。小屋はぬくい!!
とてもじゃないが、雨風の激しい世界に戻れなくな!! けれど
小屋に泊まる気も毛頭ない(金もない)。気合を入れ1ピッチで
避難小屋に行く。休んでもない一日だった。シラフもついにぬれた。

5/13 4:30 起床 カミナリの音が...
5:50 出発 カミナリのため、しばらくたいもする
8:50 朝暁 すごい雨だ。沢登り状態の登山道...
10:55 黒岩平 うお!! 登山道が川に... 腰おつかる
2:15 犬ヶ岳 はまー、やっつけた

本日も大雨。今日のルートは、晴天ならパラダイス、秋が最高、
梅雨で登山道が川になるルートは最低だ。ドバドバ
腰おつかりながら爆進した。もう日本海はすぐそばだ。

小屋の中でテントを張り、MSR をガンガン焚いて乾かした。けれど、
連日の雨で服やシラフは乾かなかつた。不快度指数 95% だな。
おまけに“富山県は梅雨明け宣言を断念”とかラジオのねえちゃん
は言ってる。馬鹿野郎、お前は富山県にいらんだよ!



5/14	4:00 起床	雨だからもう一度寝る
	5:00 再び起床	天沢のソバ
	9:15 白鳥山	きいんな小屋
	11:40 尻高山	おじさんに氷水をもらう。下界は近いかな...
	13:30 下山	おー道路にー車にー
	14:30 親不知駅	下山万歳！大成功だ

朝目覚めると雨...、雨の中下山はくたないという大木の独断で起床は5:00になる。幸い雨はあがり、ガスの中出発する。白鳥山を越えたあたりで海もぼんやりと見える。アムシに3回出会い、「最後お楽しいかなこの縦走は...」と思いつながら歩き続ける。

下山した。海で体を洗った。海の家でラテ、ヤキソバ、ビールを...よくがんばった。特に一年生の二人は初めて体験する入山日教をよく克服できたと思う。この先の山行においても学年があがってもこの縦走は大きな意味を持ち続けたいと思う、そんな山行でした。

- ・(反省) ・MSR 本体の予備、おぼろげ修理具を忘れた。EPIが本格的に助かったものの、ラレにならんことだ。
- ・自給が多すぎる。→下界にペカンを作ったならば、一人一日30mlはいい。

(大木ボロボ)

縦走合宿の反省と感想

反省をあげるとすれば、まず寝坊だろう。三日ぐらいしてしまった。何より沈殿の次の日に寝坊をしたのが最低だった。またMSRの修理具も忘れたことは、MSRの調子が悪かっただけに反省すべきだろう。個人的には体力的に限界にきていたのか、最後の四日間はずっと足がったような状態だった。もっとトレーニングが必要だ。

感想は終わった今となってはいい思い出だが、縦走中は雨のため、地獄のような日々だった。最初のうちはシュラフを含めて、装備が濡れることに動揺していたが、だんだん慣れていった。その点に関しては、いい経験だったと思う。何よりもうれしかったことは、親不知に行けたことだ。そしてビールがしてもうまかった。

最後に、ボンドさん、日高さん、林太郎、いろいろ迷惑をかけたが、ありがとうございました。

BOND隊
(上高地～日本海)

梶原 恵

夏山縦走の反省と感想

松島 林太郎

感想: 15日間という初めての長期縦走で
なんとか日本海にたどり着くことができて
良かった。日本海を見た時の虚脱感と
しだいに沸き上がってきた充実感
は忘れることのできない思い出となった。
悪天候が続く苦しい状況の連続
をやり通せたのもボンドさんのリーダー
シップとカジの最強ヘミカンの力だ。

反省: ・天気図をまともに書けなかった。
縦走終了後できるだけ天気図を
取るようにしている。
・読図をしっかりとできない。全て
リーダーの指示を聞くだけだった。
・寝坊をしない。

北アルプス縦走(親不知~立山~上高地)

日程 8/4 ~ 8/21 (13 + 5)

メンバー、岡本、岸本、横山勝兵(ジャンボ)、横山光雄生(ノック)

- | | | | |
|-----|--|---|---|
| 8/4 | 4:40
5:45
8:45
11:13
4:45 | 親不知 弁
登山道入口
二本松
斥高山
白鳥小屋 | 前日から親不知口に行き馬酔下れた。出発してすぐにはノックがバテはじめた。12時くらいに2隊に分かれ、岸本・ジャンボが天気回復として先行。午後からは雨。カミチのため少々あせったがなんとか回復してとっていた。また変なおちゃんとおねちゃんが単独行ってお上高地まで行くといっていた。 |
| 8/5 | 5:00
7:10
10:25
11:28
1:15 | 起床
出発
黄蓮の水場
黄蓮山
柵海山荘 | この日の行動は短かかったが少々おくれたがお昼にいた。白鳥の小屋につまみ小屋とまりて快適。おねちゃん(山岳会)に感謝す。また、キャンプスタイルをぶらせたおねちゃんは六時ころやてきた。本当に上高地に行くつもりなのか。 |
| 8/6 | 3:00
4:15
8:20
11:40
1:30
2:35 | 起床
出発
黒岩平
長梅山
朝日岳
朝日小屋 | 午前中始めて晴れまかみえた。サカサニ山付近から西に見える初雪山はいい感じた。黒岩平もいい所。この日からノックの歩きもよくなっていいペースで歩けた。また、変なおちゃんとおねちゃんはこの日以降見るとはなかった。 |
| 8/7 | 3:00
5:25
7:40
9:53
10:25
12:32
1:28
2:25 | 起床
出発
ツバメ平水場
雪倉岳
雪倉避難小屋
三国境
白馬岳
村宮頂上小屋 | 朝、雨カミチのため一時待機。あかるとなて出発す。雪倉避難小屋で休んでいると突然晴れた。三国境に着く前にカミチがかわき太陽のあかた土とした。白馬山頂ではおもしろいカンをみた。白馬からはいいなと人間だらけ。今まで見た人間の百倍は見た。 |

8/8
 3=10 起床
 5=02 出発
 6=55 清水平
 9=17 不帰岳 避難小屋
 3=00 祖母谷温泉

朝 7:10の時に岸本のマツかとはおはやる。
 そうしても見つからず。不帰岳 避難小屋は
 は快適な登山道が続くからここから
 先の百貫の大下り、はがしかりで精神的に
 まいる道だ。白馬から誰一人として人と会わ
 ずかた理由もわかる。またこの下りでバック
 か足を休めていたが全然気があがった。

8/9
 3=00 起床
 4=25 出発
 5=10 けやき平
 ↓ 水平道
 11=25 阿曾原小屋
 12=44 阿曾原峠
 ~1:20
 2=20 阿曾原小屋

けやき平でシュスカー130円で売っていて下界を
 感じた。水平道は言葉の通り水平。一度は行っ
 てみるべき所だ。阿曾原小屋でバックに
 仙人池まで行か?とたすねたら行きますと言っ
 た。くつをぬきくつ下をぬいて足をふーふーやっ
 いた。このアピールに気づくべきだった。結局阿
 曾原でバックかたあがって小屋までとった。

反省

一生に対する配りか足りない、とくにバックの足についてはまったく
 気がかす。岸本かいなければ、と連れていくところだった。ジャンボ
 にカンしては注意不足だった。

感想

リターンをやることの楽しさと難しさとしたおな気かした。
 ほとんど雨だったからこれもまたいいじゃないかという感
 じた。最後まで行かず ESC でありてきたのは
 ちょっと残念。
 (2年、岡本)

8月10日晴れのち曇り, 阿智原温泉~真砂沢ヒュッテ

3=00起 ~ 4=15発 ~ 8=35仙人小屋 ~ 10=45仙人平 ~ 13=00二股 ~ 15=00 T.S

仙人池からテ=ンヒとそびえる剣を見た。思えばこの日が縦走最後の晴れた。テ=場で初めて、ノックの足の親指の爪が両方ともはがれているのを知り、話し合ひの結果、次の日室堂からノックに下山してもらうことになった。我慢強さが裏目に出てしまって残念だった。

8月11日 曇り 真砂沢ヒュッテ→剣沢山荘TS 室堂バスターミナル

3=00起 ~ 4=50発 ~ 7=25 剣沢山荘 ~ 10=45 雷鳥沢 ~ 11=40 バスターミナル

12=10 ノック見送り ~ 1=30 剣沢 T.S

室堂までノックを見送りに行く。剣山荘にテ=トを張り、入山してから8日間、行動を共にしてきたスイカも食す。4日目に亀裂が入ったのをガムテープで止めておいたのだが、舌がピリピリする程酸味が強く、白馬の山頂で食べたメロンを超えるシロモノだった。室堂はこれまでかと言うくらい人がいた。みかけの「詩食コーナー」が充実していて、店員の日を無視して食べ物を食した。ノックが指針で、3人にタ=ロップテ=トは10℃肌寒い夜だった。

8月12日 曇り→暴風雷雨, 剣RTS 室別山

3=30起 ~ 5=30発 ~ 6=22 別山山頂 (濃霧、暴風、雷南で前に進む)

6時から6時間、山頂のほうにツェルトを張って待機) 12=30発 ~ 1=00 剣沢 T.S

さくざん存目に会った1日だった。テ=トに降った後ラジオで聞いたと3=31=50と富山地方は記録的存大雨だったらしい。ツェルトはあん存布キしたが、あるとないとは違う。僕も存いに越したと存いながら、忘れては存い装備だ。全身ズブ濡れて長時間いたせいか、カゼをひいた。思い出の1日である。

8月13日 暴風雨 沈殿

4=00起 ~ 7=00 沈殿沢

おや夏で沈殿をさせられるとは思わなかった。3人共、ねるかくうかたさかのどれがしかするこがなかった。

8月14日 曇り時々晴れ 剣沢T.S～五色ヶ原T.S

4:00起～5:10発～6:15別山～9:20-1越～11:10サラ峠～11:45 T.S

日程の遅れを取り戻すために、二の目からウバヒ出す。五色ヶ原では少し日も射し。色々。大乾燥大会を聞く。気象庁が「梅雨明けらしい宣言」も出したと聞き3人とも大うけする。全員 背負子。キヌリグの農大ハイパーがいた。

8月15日 曇りのち雨 五色ヶ原T.S～薬師峠T.S

3:00起～4:10発～5:20越中沢前～8:00スゴの小屋～10:55薬師岳～12:05 T.S

少しずつ前中く天気の中。むたむた歩いた。初めのうちは壁が高く見通しがよかつたが薬師の稜線に入ってからはずーとガスの中だった。テニ場に着くと頂に雨が本格的に降りだし、11:10タイミで行動終了となった。

8月16日 雨風 薬師峠T.S～双六小屋T.S

4:00起～5:10発～10:30黒部五郎小屋～12:55 REST～1:50双六小屋着

雨風に打たれながら黙々と歩く。昨日の夜更けから地震を肌で感じるおこになった。大雨のせいで山ぎわの林道がつぶれてしまった所がいくつかあったらしく。太郎平小屋は大変そうだった。

8月17日 暴風雨 双六小屋T.S～橋の肩～サマ天

3:30起～5:15発～8:20橋の肩～11:20横尾～14:00サマ天～15:00

カッパ橋→濁流にダイブ!!

今日の行動には色々。選択指があったが、結局この先天氣が回復するとはないとはいえず、さっさと下山するこになった。上高地に着いて初めて穂高周辺の通行止を知り、行かなくてよかったと思った。橋沢も実は通行止だったらしい。この縦走は、河童橋からのダイブで締めくくるこになっていた。しかし、我々が阿童橋に到着した時の梓川は、カマオレ色。水量、水の深ともに11つもの2倍。水流の速さ約4倍。行動中橋沢をみて、今日は無理だと思ひ、岡本も温泉に飛び込んで、それによしとしようという岸本と津二ボの意見に賛成していた。がしかし、阿童橋に着いてから、岡本は「オレだけもやる。」と半ば逆ギレ気味に宣言し、周りの制止も意に介さず、橋の上でダイブ直前に「迷ってるから悪いんやんやあ。」というセリフを残して濁流へ消えていった。

後ろで見ていた僕も、それを見て半信半疑の気持ちになり、結局後を追って併走
 した。山岳会に入り、数々のダイブを見て、そして何度となく自分自身もダイブ
 をしてきたが、この日のダイブは過去、最強だった。

雨に始まり、雨に打たれ、雨に終わる 縦走だったが、得ることも多い縦走だった。

(記、岸本)

縦走の感想

2年、岸本

今年ほどにもなかったが、本当に天気にも恵まれなかった。入山前は、以前
 から調子の悪さをヒザの具合が気にしたが、特に何事もなく安心した。それ
 よりも、別山の山頂での6時間肩探をしてから、3人のうち僕1人カゼをひ
 き、それから下山するまでの6日間、カゼがあつたに変わり、消化不良や頭痛
 に悩まされた。カゼのせいで体力が落ち、罔本とシブホには迷惑をかけた
 が、2人とも気をつけてくれて嬉しかった。差し入れはメロンとスイカだったが
 「白馬と剣で食え」という条件をバカ正直に守ったため、2人とも舌がビリビ
 リする程、酸味が交かっていた。

4人で最後まで行けなかったのは残念だったが、各人、得ることも多い山行だった
 と思う。来年は晴天に恵まれることを祈っておわりとする。

縦走合宿の反省と感想

横山 輝生

日本海 親不知から上高地へ抜けるという縦走

自分には、終始バテて苦しかったという印象と、

今思い出しても笑ってしまうような思い出がこぼれ

になり、一言では言い表わせなような内容の

濃い一週間だったと思う。晴れた日が少なかった

のが残念だったが、それでも仙人池から見た

剣岳等の風景は圧巻だった。反省点としては

体力不足、行動が一步遅れる。又登山ぐつ

をしっかりとけがなかったために、足の指のつめが

はげえしまい途中下山してしま。た、等基本的

な所がしっかりとできてなかったという反省

があるので、もう一度気を引きしめて取り

んで行きたい。と思うが、

全体としてはとても面白い縦走だった。

縦走合宿反省と感想

98S6024H

横山勝丘
エ:ヤマウタ

～反省～

全体的に楽しく、充実した山行だったが、たまに集中力が途切れる事もあり、清水尾根では、転がってしまいました。14日間、24時間集中しろというのは無理かもしれないが、いざというときの最大限の集中をすれば出来るだけにはならないと思います。メリハリのある山行がしたいです。今回、印象に残ったのはスバルエッセンズです。とても楽しくて、思いがけず、やはり仕事はいやいややめてはけなく、楽しんで自分から出来るのはいいなと思います。これも一つのメリハリでしょう。メリハリといえは、どうも自分の水戸様のメリハリがなく、他の3人に迷惑をかけたか、喜ばれたか、その点は不明です。ムックが下山してから、山は雨、雨、雨で、けっこういらつたけど、それでも、何か楽しみを見つけ、行動できたのは良かったです。別山では、けっこう変わった体験をしました。これも自分の糧となつていきたいと思います。最後の2日間くらい、はやく下山したくて、うしろの先輩方を見ずに行ってしまったのは反省すべき点です。あと、他のテントに隣に居るような声での下品な会話は避けるべきという案も飛び交っているようです。



～感想～

感想、超たのしかった。以上。と一言で書けるくらい正直な話、たのしかった。雨は多かったけど、それを帳消しにしてくれる位面白い話題が多かった。水平道も良かったし、仙人池からの剣はきれいだし、室堂の食事食はおいしいし、エッセンは大量に食えて満足だし、よく歩けたという充実感も大きい。それに何より、4人という少人数で2週間行動を共にし、改めて山岳会に入ってよかったなと思った。なぜなら、このパーティに愛にも似た感情が芽ばえたからである、というのは大げさだろうか？ いや大げさだ。しかし、ムックは途中下山してしまっただけで、同じ1年生として、共に頑張りあえたし、2人の先輩方にはとてもお世話話にまつた、と言っておこうか。なんといっても和気あいあいとした雰囲気かととてもよかった。1年が楽しみです。

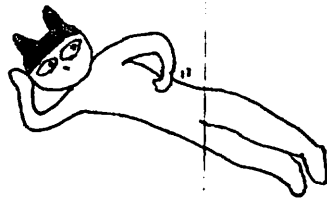
中央アルプス縦走

1998.8.13 ~ 8.19

メンバー) L: 深沢遊
若尾和世



はじめに
この縦走は当初 8/11 ~
8/20 (6+4) の予定だか
が、若尾が北海道から
帰るころのにおくられたた
め、2日遅れで入山するこ
ととなった。これ自体はし
かたのないことだが、
このことをリーダー部員
の他に俺達の山行を支え
てくれている人達に連絡
したのは失敗だった。俺と
しは山の中で予備を2つ使
ったと回したからいいだろ
うと安易に考えていたわけ
だが、それは自分に都合の
良い考えであり、予備日の
日数も考慮に入れて山行が
承認されていることを考
えれば、危険性をいかに増
大させ、その山行の可能性
の幅を自らせばめつけた
らう。承認をすれば日程を
ずらすことも可能であり、
そうしていたならばこの計
画を最後まで実行できた
であろうことを考えれば、
後悔はしない。今後はリー
ダー部員の一人として手前
勝手な判断は避け、さらに
責任の押し付けをしよう
としない。





記録。(ヤブにたつた所は特に地図を付した。)

8/13 (木)

4:37 仲仙寺登山① ~ 9:18 経ヶ岳頂上(加え)
 ~ 10:29 2200mのボコ ~ 12:30 2038
 地点。(加え)

早朝は晴れわたりに登りにつれかえに
 みかれ、頂上では視界 20m だった。野田
 さんからのハイランドを付たて切て食う。ヤブに
 入るか一七〇分、40分歩いたのにこれだけ
 しき道めが愕然とした。視界はあったが2038
 地点に着くころには進むべき尾根が見え
 ないほのかさか濃くなり、いさよ言つてい
 うに現在地も不安に感じたのでそこ
 へビハクすることにする。このとき木が2人で
 1.5Lしか残ったが、雨が少し降り、
 枯木からしたたき水滴をあつめて沸かし、
 炊飯に注ぐも量が少なくて炊飯は炊
 のようにしてした。しかし食う。1.5Lは
 温存するとして他に水が残り9で、ハミ
 カンは、その油をあつめて野菜と一緒に炒め
 したがいさよ炒めも野菜が生、おい。しかし食う。
 天気予報によるとその夜は雨に降るらしいので、
 例の
 枯木の下でフライの縁に食器を置いたけ
 て寝る。アルミの鍋に水滴があち「チン」とい
 う音がなるとも心強かった。存せが終始適
 度に
 楽観的だった。

8/14 (金) 4:00起床 → 4:56寝坊

かえは昨日と変わり、一時待期。

10:44 隣のピクが一瞬見えた。方向を地図で確
 認し、可い出発。進むにつれ晴れきた。
 12:08 1968.9のピク① ~ 12:55 1884のピク②
 ~ 2:10 1806 地点 ~ 3:42 権兵衛街道
 ○ ○

朝起きると、並べておいた食器がすべて満水になっており、ラーメンと紅茶をとり、さらに一人4リットル担ぐことができた。これでもうここでもう一泊しても大丈夫だ。大船に乗ったつもりで待機していると、隣のピークが一瞬見えた。それで充分だった。進む方向が定まり出発した。この日は進むにつれて青空が広がり、快適な一日だった。権兵衛峠ではすべてを乾かした。

8/15 (土) 3:30起床 (ガス)

5:05 発◎～5:50 尾根通りに進み、ヤブ突入◎～6:46 西に90度曲がる所◎～

7:50 南に90度曲がる所①～10:55 南西に90度曲がる所。若尾がキレた。◎～1:11

登山道に出た●～2:05 大樽小屋

エリアでコースタイムまで書いてあったので、まさかヤブだとは思わなかった。道など全くない。しかしヤブに慣れた我々二人は昨日よりハイペースで進む。それでもコースタイムの2倍はたっぷりかかった。最後は1927のピークまで行かずに南下して道に出た。木に登ったのは面白かったが周りの木も高く、ガスつてもいたので何もみえなかった。ダケカンバはのぼりやすい。

8/16 (日) 3:30起床。雨がけっこう降っている。5:15の天気予報を聞いてから出発。5:28 発 ～7:37 西駒山荘(強風)～10:27 木曾駒山頂(ガス)～11:00 山頂小屋(ガス)水あり

強い風と雨が去年の南アを思い出させる。西駒山荘では中原寮生が2人いてお茶を入れてくれた。あたたまった。若尾はこの暴風雨にビビっているようだ。ヒマラヤではこんな風は吹かなかったのだろうか。次の天場まで行くとギリギリになりそうだし、この天気の中を急かされて歩くのは嫌なので山頂小屋に幕営した。寒くて軽い風邪をひいてしまった。

8/17 (月) 3:30起床→3:52寝坊

5:55 発(ガス)～7:00 千畳敷駅。人っ子一人いない。～10:13 桧尾山頂(小屋まで10分)

朝起きたら服が全部乾いていた。やはり着干しは素晴らしい。一端宝剣に向かうが風強く、危険なので千畳敷に降りて巻くことにした。桧尾についても相変わらず暴風雨で、今日はもうこれ以上標高の高い所に行く気がしなかった。桧尾避難小屋はメチャクチャ良いところで、ここにならいつまでも暮らしたいと思う。若尾が持ってきてくれた銀山メロンを食う。

8/18(火)4:00起床。ゆうべはネズミが出てきてかわいかったが食器の中に入って出られなくなって焦ってウンコをもらしたような跡があり、ショックだった。丁寧に拭いて熱湯消毒してから食事をした。

5:55 発(ガス)～7:15 熊沢岳㊟～8:19 東川岳㊟～8:30 木曾殿山荘㊟～10:17 空木ピーク㊟
～12:00 南駒ヶ岳ピーク㊟～2:09 越百山頂㊟～2:45 越百小屋㊟

朝、稜線に出てみると昨日より風が弱く、雨も降っていない。時々雲が晴れたりした。空木まで意外と早く来れたのでコスモまで行くことにする。もう予備を入れて跡2日しかなかったので、今日コスモに泊まってしまうともう安平路の方へは行けない。唯一の可能性は、今日のうちに安平路の方へつっこみ、少しでも多く進み、どこでもいいからコース上でビバークするという事だった。水もたっぷりあったし、このようなビバークに俺達は慣れていたのでそうしようかとも思ったが、少し危険なのでやめた。越百小屋で小屋のオジサンオバサンに安平路の方の情報を聞き、こっちも経ヶ岳に負けず劣らずヤブコギだということを知り、つっこまなくて良かったと思った。小屋のオジサンオバサンはとても良い人達だった。ちなみに避難小屋はなく、天場があった。

8/19(水) 朝は適当な時間に起きて麦谷さんからのデカイメロンを食べた。今日はもう帰るだけだ。7:40 小屋発。二人で木について話したり粘菌、キノコを採ったりしながらのんびり下る。登山口について少し休んでいたら、すぐに工事のトラックが通り、乗せてもらう。工事現場まで送ってもらい、そこから一時間ほど歩いていると、魚釣りの人の車が通り、乗せてもらう。塩尻の人で塩尻まで乗せてもらうことが出来た。とても親切な人でサンドイッチとビールをおごっていただき、助手席で僕はすっかりいい気分になっていました。

おわりに

二週間という去年の縦走に比べると、今回の縦走は圧倒的に短い。その点、精神的にはかなり楽だった。シュラフカバーを持っていったので快適にすごすことができた。肉体的にも少しもきつくなかった。しかし楽づくしで得るものが何もなくかつたかというそうではない。以前からヤブ好きを自認しながらもヤブの経験がほとんどなかった僕にとって今回の最初の二日間は新しい発見の連続だった。ヤブの中でガスにまかれても冷静に行動できた自分に自信ももてた。ヤブコギは頭を使う山登りだ。それだけに一般登山道に出てからはかなり物足りなさを感じた。終始視界が良くなかったというのもその大きな原因だろう。ガスの中の登山道はただ歩いているだけであまり面白くない。高山では植物もあまりないのでなおさらだ。やはり一般登山道は晴れた日に歩きたいものだ。下山の日青空が見えていたので、予備をきちんと持って行っていれば確実に大平まで行けたと思う。それが少し心残りだが、まあ山は逃げないだろうし、来年の夏にでもまた行ってみよう。

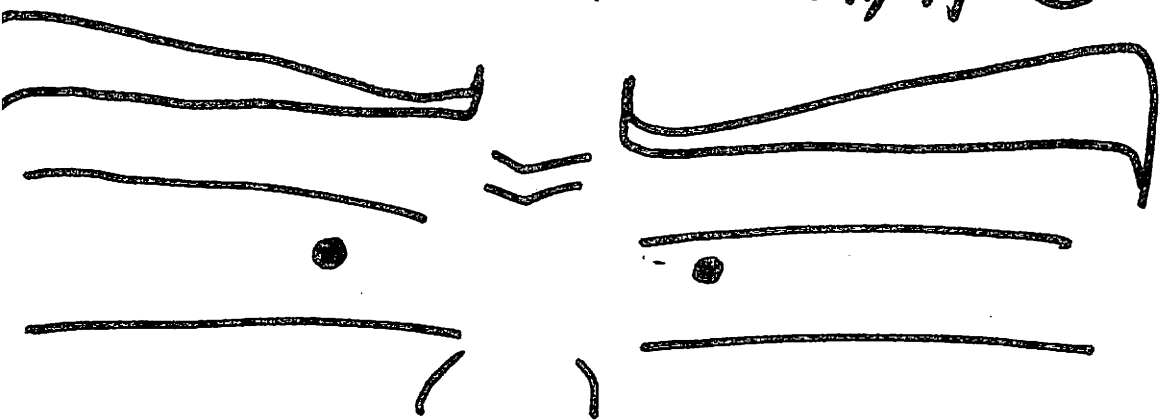
(2年・深沢)

夏宿 又白

金釘

8/26 ~ 8/29

~ 酒と雨と男とホッカ ~



复合宿 In 剣 8月26 ~ 9月3日

8月26日 とうとうや、て来ました。ホッカの复合宿。初めての本キャンプ。
 今日は、天気も良く、ホッカ日和となった。今は、快適なテント
 サイトで岡本カリーをエッセン中。楽し。岸本は玉金の様な等圧線も引いているらしい。
 明日も天気が良ければ、無事ホッカを終了したい。

松寿

M 4:00 起床 → 7:30 扇沢発 → 8:15 黒部湖発 → 9:03 休けい
 → 10:07 休けい → 11:12 休けい → 12:50 休けい → 1:45 休けい
 → 2:15 テン場着

8/27

3:30 エッセン起床
 5:10 T.S 発
 8:35 ハシ谷乗越
 9:10 展望台
 11:25 T.S
 15:10 フィック2隊戻り



ホッカにみる
 信州大学山岳会員

午前中に真砂沢口に着いてしまった。すごいスピードだ。さて、
 上級生4人で偵察に行ったが、あんた、こっかすいの
 はんの。4人供開いた口がふさがりな〜く、
 長次郎谷のひどかった。縦横無尽にクパスが走っ
 たり。上の方は雪ねーし、速功徹底したよ。
 ちやBCは真砂沢に決まってる、おれはもうXシ食って
 クパスねるし及な〜わ。

8/28(金)

源治郎尾根

3:30 ESSEN起床

4:15 オレ起きる

7:25 登山杖の検出

8:20 R

8:35 取り付く

9:30 ルンゼイ出る
登山杖の検出

11:00 R

1:00 2峰のけんすい

1:55 剣本峰

4:00 剣山荘

6:00 BC

今日は、9人全員で源治郎尾根に行った。取付き付近で少し迷い、時間をとったが、稜線に出たらほとんど迷わずに歩いて、2峰のけんすいを終えて、てくてく歩くと山頂に着いた。オレは山頂で登山杖を見つけたとたん奇声を挙げた。そこから歩いて山頂に着いてアベックが1組いたのを見て、耳がしびれた。なんでそんな天気の日には山頂にいるんだ。富士は帰る。富士の系統走でも、この近くに来たが、今日も雨風の中での行動になった。

山頂から熊岳を見えたが、雪が本当に全くなかった。あちこち雪が落ちた。

その後、寒いし、さすこ降りた。

8/29

6:30 BC登

7:25 一本

8:25 ハジゴ谷乗越 下り30分

9:30 T.S

10:30 内蔵助谷で一本

11:30 黒部川沿い

12:50 黒部湖

(17:10) Aパーティー着



いっしょに
たのしみ

雪渓の状態、天気の関係で下山するようになった。残念だが仕方なし。Bパーティーはボートが黒部溪谷に転落するという以外には快調なペースで進み、40kg以上のザックもものたいていよく歩いた。

Aパーティーが到着するまでに酔ってしまったのはまずかった。

無事下山できてよかった。

はらだ りょうすけ

「天気には逆らえない」これは冬によく自分に言い聞かせることだが、夏合宿ではおぼろとほ……。残雪が少ない上に6~8月とたっぷり雨が降った。源次郎谷はもうこの時期までに雪が有った。残念としか言いようがない。楽しみにしていたのに……。

とにかく冬に向けて雪が7ヶ月前に本荘ニに行き続けないでしよう。

反省と感想

三年 麦谷 水郷

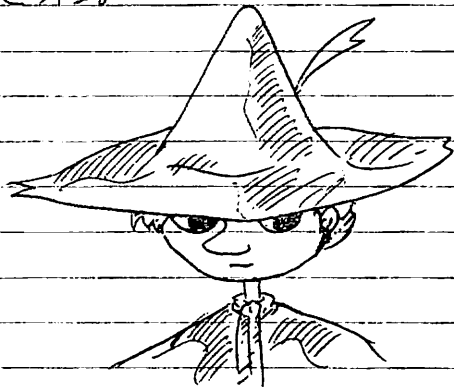
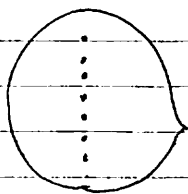
今回、短い合宿ながらも、サブリーダーを努めさせてもらったが、そういう役を負うことによってまず気づいたことは、自分の指揮をとる甘さとリーダー、原田亮介の偉大さである。例えば、懸垂下降をする際、ロープを持っているものが自分のハーネスを履くよりも先にロープを用意しておけば時間の節約になるとかは、当たり前と言えば当たり前なのであるが、ちょっと機転を利かせないと気がつかないことでもある。そういう細かいことに対しても気を配れる能力は全体をまとめるにあたって必要となるものであろう。そういうことを考えると原田亮介なる人物は結構イケテル。彼はさらに山岳会全ての人に自分の愛のベクトル向けることができる、言うなれば山岳会と言うものを心から想っている。そんなことはちょっと、わがままで自分のことしか考えていない私にはできない。負けた。自分を捨て全ての人、山岳会を愛すること、そこから全体に対しての気配りとまとめる能力が生まれる。ちょっと、原田亮介を尊敬する今日このごろである。・・・でも、テン割りなんかでぶつくさ不満を言うのはやめてください。



88 夏合宿 反省と感想 中島辰哉

反省) 3年目の夏合宿を迎えたわけだが、合宿に対する姿勢が、自分から良いものであることが反省としてある。それは、具体的には、自分が何をすべきか、どのような行動をとるべきか、自分はどのような役割であるかをしっかり考えること、よく合宿に参加したということである。上級生として全体を見守るに於いて、最低限の体力は必要とし、そのためのトレーニングも必要であった。また、種々の仕事を、周りが抱えてくれるからいいと決めつけ、何もしてないでいたことが多かった。そのために自分は、まだ参加しているだけで、合宿の流れに「便乗」しているような気が常にしていた。一体自分は何をやっているのかと自由回答していた。しかし、そんな疑問の答えも自分自身にあると思う。山岳会3年としての山に対する姿勢、会に対する姿勢があまりに低すぎるのではないだろうかと思う。

感想) ^{山の} 天候的にも、コンディション的にも悪かった。一体何しにハンゴ谷乗越をこえたのかわからぬのは自分だけでは無いだろう。しかし、行、止、このちがいで源次郎尾根へ行けたのは良かった。今回の合宿は途中下山であったが、濃い合宿だった。1、2年の強さに驚いた。強すぎる。そう思った。



自画像？

夏合宿反省と感想

又年 大木 ボノ

残念なから天候と雪溪などの関係で岩は登れず、源次郎尾根一本 + 歩荷3日間 というギャグみたいな結果に終わってしまっ今年夏合宿だった。思えば今月は縦走、サマテン夏合宿 全て雨も。つまり、これほどいい年もあるんだなと妙なところで感じました 98年の8月だった。

さて、夏合宿だが自分は登攀よりも歩荷の方に気合を入れてみた。関節が強く下山といってもそれほどショックではなかった。実際、初め Fix 隊として長次郎谷の偵察に行っていた “もう今年も登れねえ” と覚悟していた。源次郎尾根登山をやったラッキーだったと思う。いや、この尾根だったよ 源次郎尾根は… (倒置法)。

反省としては全く間の抜けた話だが、下山路の黒部川谷で滑落したことがある。あれはまずかった。くたばるところだったし、不注意による事故だった。落ちた本人よりも周りの人の方がおぼろげにびっくりしていた。誠に申し分ありません。反省しています。

まあ自分のくたばり事故のあたりが、エッセイと装備は今までの反省をいかしていた結果の結果だがまじりのあるいい合宿だったと思う。本キャン経験をもらえなかった1年生産は各々の努力がカバーしてほしい。そして自分もまた一層の努力を…。

結論: もう夏山はいい!!

早く冬になれ

合宿の反省と感想

2年坊 岸本

・反省というか感想というか、この合宿を一言でまとめるとするならば、

『いや～参りましたねえ。』

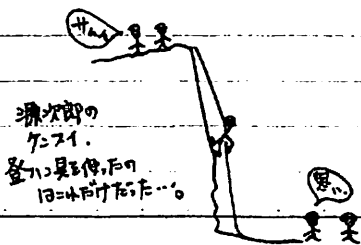
というのが一番妥当な所だろう。"クソ悪い天気"に"ブローク=長次郎"をして"ノースノー熊ノ岩"と三拍子揃われてしまって、一応源治郎尾根から本峰に行、たものの、その後やる事といたら、室堂に行って試食品を食らうが、別山に行くが、ひたすらゴロ寝するかのどれがで、結局、

『じゃあ、帰るが。』

という事になり、しょっぱなとたいては変らない荷物を担いで、4日目にして早々、松本に帰って来てしまった。唯一の収穫と言えば「これで歩荷は終了。」というニとだけで、一年に真顔で「礼座、何しに来たんスかね、先輩。」なとと聞かれると誠に返答に困る次第で、僕も何度となく空に向って「オイ、太陽、でていこう!!」なとと叫んで挑発したりしてみたものの空しくなるだけで、「まあ、二人を夏もあつたするや。」なとと一応自分なりに納得したわけ、北ちよーせんはミサイル飛ばしたりと最近、せの中、インですな。ハイ、

・一年生がたった二人、全員で9人と少数で行動したゆけで、少しさみしいのを除けば、機動性に優れ、指示を伝え易く、全体としてやりやすかった。恐れていた歩荷は、重さのわりにはズレたニとはなく、今年は皆強いのが、去年夕方頃着いた行程を昼過ぎに終えたりした。3日に行、た源治郎は去年取付きを間違えて敗退したので、雨の中、ガスの中とはいえ行けてよかった。

・野郎9匹という空間におおよそ"人としての品位"というものが存在するわけはなくてひたすら下種話で盛り上がる4日間だった。反省と感想を書きたいのだが、如何せん、^{内容}内容が内容なので、ニとといった反省も感想も書けない。だが、おわりとする。今年の8月は20年の生涯で初めて「暑い。」まり「寒い。」を多く口にした夏だった。夏を返せコノヤロウ。



ブローク=長次郎



夏合宿感想と反省

日高 弘次

[反省] 。1年間山岳会をやっていて書くような事ではないのだが、体力がない、技術が未熟という事だ。あほとしか言いようがない事だと思う。

。これも2年が反省するような事ではないのだが、靴のずれが反省すべき点だと思う。

今回は縦走の時の事を考え、靴下を毎日とり替えて注意はしていたのだが、結局はなった。

皮が弱いのはわかってるが、1年の時よりひどくなっている。これからはもっと対策が必要だ。

[感想] ボッカに始まり、木を間もなくボッカに終わった。

苦しいのは皆同じだとわかっていながら、一人死んでいた。

とにかく苦しかった。今までの中で一番苦しかった。

終わって、音楽を聴きながらこの感想を書いている

と、"いい経験"だった。と言う事ができるが、実際50kg

を背負ってる時、一人死んでる時、今さらながら何で

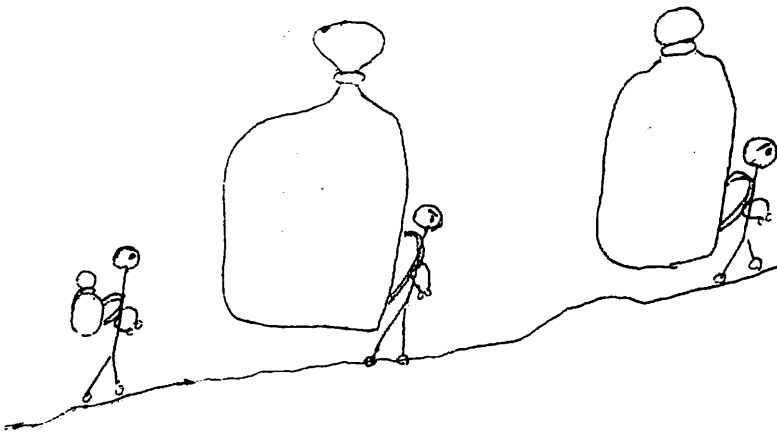
山に登るのかをずっと考えていた。

反省 岡本伸也

- ・事前の準備のおそくか 1番反省するところ。
出発前日まで準備せよと その日にすべて準備した。
準備は自分のモチベーションを上げるのもとても大事な事。
それはもっと前にやっておくべきことだ。
- ・1年への指事の少なさ。
落石を1年かしても、まあしゃあない、と思ってしまう。
注意することは、1年^{自分}のためにもなるので細かいことでも
言うべき。

感想

1番おそれていたホッパカがあっけなくおわり。合宿自体
あっけなく終わった。こんなでいいかなと異部の馬鹿で
思ったけど、まあこれでよかったかなと帰ってから思った。



夏山合宿の反省と感想

98S6024H

横山 勝彦

～反省～

前日に、セテオが映画の本立をやらせて、寝不足、
アンド準備不足になってしまった。準備はもっと早くから、
前日はもっと早く寝る、といった、当然といえば当然だが、
教訓を得た。また、準備不足といえば、直前になって、
少体の調子が悪くなってしまった。これは、サマテから
続く、暴飲暴食が原因であり、また、これにより、体重も
増え、本チャン前だといわれるようになった。という
ことになってしまった。これも準備不足であろう。

山中では、エッセイなどは縦走で慣れたので、何をやらう
良いかということはまずまず解かるようになっていたが、今、
積極性に欠けていために思う。何れもそうだが、**もと自分から!**

～感想～

正直言って超残念である。まあ、今年の夏はうまいしか
ない。その不足分は、9月中に補っていきたいと思う。

それにして、新人合宿に続き、またまた得るものが大きな山行
であった。荷物は、重く耐えられなかった、ということにはなかったが、
こけたら止まらない! 単純な山行だが、非常に恐ろしい。
現在位置を確認する習慣が少なくなってしまったと思う。外、朝の
全体の動きをほとんどいなく動けるようになった... など。

ここで、新人合宿でも、今回でも、得るものが大きい、と書いた
が、同じ得るにしても、今回は前回よりも、自分から多くのことを
学べたような感じがしている。このことは、これから先も続けていき
たいものだ。そして、徹底的に山を楽しみたいと思う。 剣頂 _{よがたて}

夏合宿の反省と感想

松寄 林太郎

反省 @合宿前日は余裕を持てるように個人装備の準備は事前にやっておくべきだと思った。

@源次郎尾根主稜の縦走や帰りのボッカはかなり疲れた。バテはしなかったが冬山に向けてさらに体力をつける必要があると感じた。

@エッセン中は必ず軍手を着用して、火を扱っているときやなべを動かすときは不用意に動かさない。

@雪溪や落石地帯では常に緊張感を持って間を空ける。落石を起こさない。

感想 @今年の夏はいったいどうなっているんだ。雨雨雨……………・初めの本チャンと言うことで合宿前から気持ちが高ぶっていたのでこのような形で合宿が終わってしまったのは残念だった。しかし、そんな天候の中で源次郎尾根を縦走できたのは本当に嬉しかった。時折ガスの合間から見える山々は美しかった。劔岳本峰から見た八峰はなかなかの物だった。来年こそは登ってやる。そして、ボッカもばてることなく終えることができてよかった。新人合宿や縦走合宿の反省を生かして防水対策をしっかりしていったこともよかった。また、新人合宿同様FIXロープをはったり先頭に立ってルート判断をしたり、的確な指示を出す上級生の姿を見ると自分も山の経験をもっと積みトレーニングを積み早く上級生に近づけるようにがんばらなくてはと感じた。肝心の本チャンができなかったが体力はつきいろいろなことが学べた合宿であった。雨の野郎いいかげんにしろ。自然の力は偉大だ。

。係からの反省。

会計

岡本

	収入	支出	計
各宿費	$11 \times 8000 + 2 \times 4000$ (合宿直前2人不在)		96000
食費		41209	54791
装備費		5050	49741
ガス代		$1 \times 2000 + 3 \times 2000$ (1観察)	41741
馬車代		$3台 \times 2人 \times 500$	38741
便途不明金		50	38691
返却		11×3500	191
松本部費		191	0

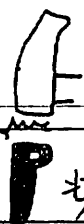
エッセン係の反省 岡本

- 初日のボカリを忘れて行き忘れた。
 - 昼めしにあげせんを入れろ、という意見もあった。
 - お茶について
夜は ウーロン茶・お茶はカフェインが多量に入っているの
ため、虫歯予防になるせん茶がいいとのこと。
朝は 紅茶がいいらしい。
 - OBの方からいたたた乾物は非常につかえるので大切に
つかおう。
 - くいしニきはめしのありがたみかなくなるのでやめよう。
 - タンバコでかすき
 - レーションでかすき
 - つけもの、ふりかけ等はタンバコに入れよう
- エッセンからの感想

廿二天のあ利物や いたたた物を最大限に利用しようと思った
かたぐし人あまってしまった。また次の合宿で使ってください。

今回の合宿では 前半はふたのYニユで 後半に後継家の
人の方へ上げてもらうオリオを作ったが前半でおいてしま
ったので残念。あまた昼めし・レーションは個人山行で使
ってください。





装備の報告と反省

岸本

消費したもの

メタ 18本

シュリゲ 1本

白ガス 約3.5L

ローソク 1ヶ

※直前の人数変更や途中下山などの関係上総量に

電池 16本

変更があり、又消費量も人数と日数の為少なく、

広い数字として仕したが、今後の参考にはしるゝこと。

反省

今回装備を担当して、反省は以下の3つ

- ・シーバーを1台忘れた。
- ・ダニロフのポールが1本長かった。
- ・メタの防水をしているが。(のがあった)

・装備は手間のかかる係なので、装備のチェック、確認、注文などは7月中に済ませておいた。今年も2年生が装備を担当する以上、事前にできるとは7月中に全て済ませておくことをおススメする。8月は縦走・サマテで忙しかった。また、バニバニ人を使うと気持ちいいし、楽なので、今後もヒマそう人間は、上級生だろうと、何だろうと丁寧にお願いしつつ、バニバニ使うべし。細かい事だが、夏合宿の装備は(登ハ=具)、今回のように1パーティ分、Fix用、予備と、実際にそれとれよとめて、各々まとまりにして持って行く方が混乱を避けられてよい。今回登ハ=具は一度も日の目を見ることはなかったが、この方法がベストだろう。尚、これはリーダー会で出たことだが、11センチザイル、10m位に切れて、2本ぐらゝ持って行く。源治郎尾根也、少しお助けザイルが欲しい所などで役に立ったろう。

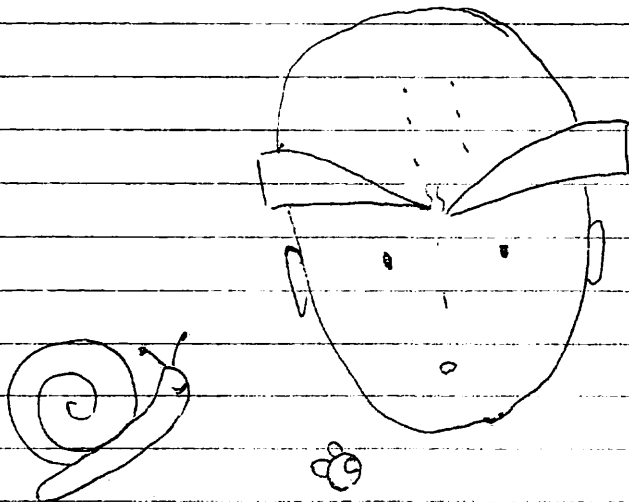
最後に、今回準備で一年生も余り使わなかったのは、まくなかった。野田さんと岡本の2人には、買い出し、注文等で色々手伝って貰った。1人から感謝。それと余りという事は言いたくないが、合宿直前に退会するのは速慮してほしい。エッセイや装備を担当すればわかるが、困るのだ。それ以前にやめるな。1ヶ月の合宿はさみしい。🙄
来年の晴天を祈り終りとする。

気象の反省と感想

日高

〔反省〕。合宿出発前の天気図を配るのが遅すぎた。
週間天気予報の載っている新聞を買おう、という
所までは頭がまわっていたのだが、毎日の天気図
ののっている新聞は人にもうしか方法はな
い! と思っていて、買うという選択しに気が付か
なかった。我ながらマヌケだった。

〔感想〕。NHKの周波数が地域によって変わるという事
を今回初めて知った。どいう新聞には周波
数が書いてないわけだ。
。天気が悪く、登はんは〇という复合宿になった
がこれは気象係でもどうしようもない事だった
と思います。
。気象缶は報いや求で良い。





表紙：かいはろ

編集：川井

発行、印刷：松本

1998, 10, 21 (水)

オープン価格